

児童発達支援 事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和4年3月1日

事業所名 特定非営利活動法人子ども館ゆめのたまご

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	改善目標、工夫している点など
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○			十分あるので、訓練等行っている。
	2	職員の配置数は適切であるか	○			常に定員より多くいる。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか		○		いわゆる箱型の施設と違い、家庭的な療育をめざしているもので、十分ではないかもしれない。改善はしている。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	○			コロナの為、全員が一同に参加はできなかった。文書でやりとりを密にし、かえって深いものとなった。
	5	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			常に保護者等の意向等は把握して改善につなげるよう努力している。
	6	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○			
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか		○		第三者委員を決めた。評価までは至らなかった。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○			研修は大切にとらえ、できる限り参加しているが、コロナの為、リモートが多かった。参加した研修は必ず復命書を提出し、全員の共通認識とする。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	○			よりていねいな話し合いが、今年はできた。
	10	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか		○		
	11	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	○			地域支援だけはコロナの為できなかった。他は十分な支援ができた。特に家庭支援は必要に応じて行えた。
	12	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	○			より密度の濃いやりとりが行われた。
	13	活動プログラムの立案をチームで行っているか	○			常に話しあっていた。
	14	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○			工夫している。
	15	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を敵宜組み合わせる児童発達支援計画を作成しているか	○			
	16	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○			「何でもノート」「ヒヤリハット」等で共通認識を確認。支援の内容や役割分担も確認。

	17	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	○			コロナ禍でお迎えの時間を早くに下さる方が多くて、以前より話し合いが十分されている。
	18	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○			
	19	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか		○		
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○			
	21	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	○			ほとんどの利用者は関係機関よりの依頼もあり、連携した。大変良い支援が十分行われている。
	22	医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等の在宅支援のために、地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか	○			
	23	医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合は、子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか	○			大変良い連絡体制が整えられている。
	24	保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、移行に向けた支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	○			
	25	小学校や特別支援学校（小学部）との間で、移行に向けた支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	○			
	26	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	○			
	27	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	○			例年はたくさんあるが、今年はコロナの為できなかった。
	28	（自立支援）協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか	○			
	29	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○			連絡ノート、直接的な話し合い等よく理解しあえている。
30	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っているか		○		ペアレント・トレーニングは毎年専門家の研修があるので、参加を促している。チラシ配布等協力している。家族支援プログラムはいろいろ考えていたが、コロナの為実行できなかった。	
保護者への説明責任等	31	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○			
	32	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	○			
	33	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○			十分行っている。
	34	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか		○		試食会、懇談会等計画していたが、コロナの為実行できなかった。
	35	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○			常に心を寄せ迅速に対応している。

	36	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○			まめにおたより等出している。
	37	個人情報の取扱いに十分注意しているか	○			十分注意している。
	38	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○			
	39	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	○			常に大切に考えている。イベントはできなかったが、3月に地域をまきこんでの消防署員による避難訓練を行っているが、今年はどうか。
非常時等の対応	40	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	○			十分行っている。
	41	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○			
	42	事前に、予防接種やてんかん発作等の子どもの状況を確認しているか	○			
	43	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	○			
	44	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○			共有している。少しの事でも検証し、次の支援にむける努力をしている。
	45	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○			虐待は“しない”、“させない”、“みのがさない”をモットーに常に意識している。
	46	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか			○	身体拘束の経験なし。必要ならば保護者と話しあう。

○ この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。

<一年をふりかえって>

今年もコロナ禍の中、例年と異なった事態となったが、利用者数は多かった。ともかく子どもが元気に通ってくれる為、免疫力のつく食事、遊び、感染に対する配慮等心がけた。一人一人を大切に、よりきめ細やかな支援をと、全員参加の会議ができないかわりに、こまめな文書によるやりとりを行い、深く関わった。

医療的ケア児増加により、幅ひろい家族支援も行われた。

医療関係者、保健師、子育て支援課、障がい福祉課等の行政各事業所、保育園、幼稚園等の連携もあった。

今まで人員（職員）の心配はなかったが、これからは働いてもらう人の確保が難しくなるのではないかとこの想いが感じられる一年であった。